

知事と区市町村長との意見交換会

令和3年10月14日（木）
16時00分から16時40分

○**行政部長** それではこれから意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事から一言、お願いいたします。

○**知事** 皆様、こんにちは。若干遅れまして恐縮でございます。なかなか対面でということ、今まだこの措置期間中ということもございまして、今年こういう形にさせていただいております。

まずは2020大会、世界中に勇気と感動を届けることができたかと思えます。

また、何よりも先日は首都東京が地震、各地で様々な状況について変化があったと思えます。それについても伺えればと思えます。

何よりもコロナです。コロナについては皆様方最前線で保健所の方々、そしてまた医療従事者の方々、ワクチンの接種から、それから陽性者が発生した時の様々な対応等、本当に皆さん頑張っておられました。都民の命と暮らしを守る、新型コロナウイルスの感染拡大を食い止めるということでの最前線での皆様方の御活躍、改めて尽力されていることに厚く御礼を申し上げます。

また、新規陽性者については、このところ二桁で抑え込んでいるということ、これもそれぞれでワクチンの接種も進んでいることかと思えます。

そして先ほど申し上げました震災対策等、災害に対しての備えということは、これはもう常日頃行っておかなければならないということで、首都東京を更なる高みに導いていく、そして持続可能な成長を遂げるということで、サステナブル・リカバリーの視点から東京都と各区の連携、そして皆さんと共に明るい未来を切り拓いていく、そのための今日は情報交換、意見交換の場とさせていただきたいと思えます。

限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○**行政部長** それでは最初に品川区の濱野区長から、御発言をお願いいたします。

○**品川区長** 品川区の濱野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

品川区の商店街・中小企業等への支援充実について、お話をさせていただきたいと思えます。品川区はいわゆる旧東海道の一番目の宿場町ということで、発展してまいりました。そういう意味では東京の表玄関としての位置関係にございます。

最近では五反田あるいは大崎の地域におきまして、新たなIT技術を有するスタートアップ企業の集積がめざましく、活気に溢れているところでございます。製造業とIT企業が融合するまちとして、シリコンバレーに習いまして「五反田バレー」なんていう言葉が生まれておりまして、品川区の大きな今の特徴になっているところであります。

また、品川区というのは四方約5キロメートルという狭いエリアでありますけれども、その中に活気のある多くの商店街が存在しておりまして、区民が行き交い、交流の場にな

っているとともに、賑わいを創出しているところでございます。地域経済の核にもなっているところであります。

こうした形で産業・商業が盛んな品川区でありますけれども、区内の中小企業、ここは新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴いまして、緊急事態宣言のあおりを受けまして、中長期的な経営見通しが立てられない、そんな状況にございます。

このようなどころでございますが、品川区民で2回目のワクチン接種を終えた割合が、高齢者では約9割、全ての区民では約6割を超えております。

区内の賑わいを取り戻すべく、商店街や中小企業等の活性化に向けて、更なる積極的な支援を行いたいと、そのように考えているところでございます。中小企業向け支援事業におきましては、昨年度に引き続き、融資あっせんや経営相談体制の強化、テレワーク導入の費用助成等、更に拡充しております。周知に当たりましては、区内の全事業所にポスティングを行い、区のみならず東京都の事業を知っていただく工夫を凝らしているところであります。

また、商店街ではコロナ禍を契機に、チェーン店や比較的新しいお店でキャッシュレス決済の導入が進んだというふう認識をしております。区では東京都の補助金を活用いたしまして、新型コロナウイルス感染症により疲弊した地域経済の維持・再生を図るとともに、デジタルの力を活用した区民の新しい日常を支援するため、11月からキャッシュレス決済サービスと連携したポイント還元事業を実施する予定でございます。

都知事におかれましては、かつて品川区の商店街にお越しいただきまして、キャッシュレスでお買い物をしていただいたことがございます。品川区の誇りでもあります。

区民と商店街の双方によりメリットのある形でデジタル化を進めますとともに、このデジタルを活用した区内外の観光客の誘致をより一層進めまして、コロナ禍以前より強固なものとなるよう、区内経済の活性化を図ってまいります。

最後に一点、御要望させていただくこととなりますが、コロナ禍で失われました商店街イベント等、地域の賑わいの復活に向けた商店街の基盤支援を今後も継続していただくとともに、コロナ禍にあって苦境にあえぐ中小企業への支援を迅速に行っていただく等、感染拡大防止に協力してくれました中小企業が意に沿わない形で廃業することがないように、施策を進めていただきたいと思います。

今後もしばらくは先行きが不透明な状況が続きますが、感染症対策と経済対策が両立いたしますように全力で取り組んでまいりますので、「未来の東京」戦略を踏まえ、是非積極的な施策展開と継続的な御支援を検討いただければ幸いです。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは知事からお願いいたします。

○知事 コロナの前でしたね。区長と一緒に戸越銀座、歩かせていただきました。キャッシュレスの現場ということで、振興策としても伺いました。私にとりまして懐かしいところです。

商店街・中小企業等の支援充実についての御要請であります。感染症が地域経済に本当

に深刻な影響を及ぼしてきたというふうに、認識をしております。

都におきまして、地域経済の活性化に向けて、区市町村が3か年にわたって地域の産業特性を踏まえながら行う取組、また、商店街における感染症対策、そしてキャッシュレス化等の取組の支援を実施をしているところでございます。

品川区におかれましては、「地域産業活性化計画」を策定しておられる、こうした都の支援策も活用していただき、ITスタートアップ支援、そして商店街店舗のITの導入支援等、推進をしていく。

また、区内の産業の更なる活性化に取り組んでいるところでございますので、これからも区市町村と連携して、都内の多様な産業の持続的そして安定的な発展をしっかりと後押しをしていきたいと考えております。

地域の商店街の皆さんにもこれからも頑張りましょうと是非お伝えくださいませ。

○品川区長 どうもありがとうございます。

○行政部長 どうもありがとうございます。

○行政部長 それでは続きまして目黒区の青木区長、御発言をお願いいたします。

○目黒区長 こんにちは。目黒区長の青木英二でございます。

まず冒頭、知事に御礼を申し上げたいのは、こういったコロナ禍の中、オンライン方式ではありますけど、本当に就任以来絶えることなく、継続してこういった私どもとの意見交換会を開催いただいていることに、まず感謝そして敬意を表したいというふうに思います。

一点目、大きな課題、先ほど知事からもお話がありました新型コロナウイルスについて、三つ御要望、お願い申し上げたいと思います。

まず一点目は、これは基本的なことですけれども、今、ワクチン接種でも私ども 25 万以上の対象者の方が二度接種をするという、今まで経験もない、体験もない取組でした。東京都も同じでしたので、例えば最初の医療従事者の皆さんのワクチン接種等、それと協力体制、連携、なかなかうまくいかなかった点がありました。今後 3 回目の接種があったり、これからもずっとコロナ体制が続いていきますので、まず基本的な要望、お願いとしては、東京都と私ども 23 区の連携強化、このことをまず最初をお願い申し上げたいと思います。

二つ目は知事もさっきちょっと申し上げましたけれども、保健所設置をしている自治体の首長としてのお願いです。今回の本当に急激な感染拡大の中で、私ども特別区の保健所の在り方について、また、医療機関への入院措置ですとかホテルでの療養等、こういった課題について、23 区と東京都の役割分担というのをいま一度整理をして、これはやはり効率的・効果的にその事業が進んでいくように、是非今後も協議をお願いしたいというふうに思います。

それから特に今後についてですけれども、今月の 8 日です。国立国際医療研究センターから後遺症、いわゆるコロナの後遺症で 6 か月後でも 4 人に 1 人出ています。特に女性が多いですというような、ちょっとショッキングな調査結果が出ています。足かけもう 2 年に及ぶこういったコロナ禍の中で、心にいろいろな悩み、ストレス、問題を抱えていらっしゃる区民・都民の方もいらっしゃいます。こういった課題は非常に長いスパンを要する課題だと思います。コロナ禍、ポストコロナの中でも、是非こういった問題を都と区で協力して、解決に向かって御協力をお願いしたいというふうに思います。

それから二つ目の大きな課題として、東京都が今年の 3 月に「未来の東京」戦略を策定されました。私ども目黒区の未来、20 年後に向けて目黒区が進んでいく道筋、私は区政の羅針盤と呼んでいますけれども、長期計画の一つである基本構想を策定いたしました。

現在、この基本構想を踏まえて、10 年スパンの基本計画、それから 5 年スパンの実施計画を策定しています。こういった長期計画の中で私ども、共生社会の実現ですとか、デジタル化、それから CO₂ を排出していかない取組を進めております。こういった課題は東京都の、今申し上げた「未来の東京」戦略と非常に通じる部分がありますので、是非連携をよろしくお願いしたいと思います。

特に国はデジタル庁を作られましたけれども、やはり東京、特に 23 区は知事にこのデ

デジタル化の牽引役を是非担っていただきたいというふうに、強く思っています。

それから二つ目は都市計画交付金の適正化についてです。これはもう長い課題でして、8月の区長会要望でも出させていただいておりますけれども、私ども今申し上げた長期計画の中で、特に自由が丘駅周辺のまちづくりを今進めています。元年の12月に東京都のしゃれ街条例（東京のしゃれた街並みづくり推進条例）で、私どもこれは自由が丘の地域の街並みの再生地区ですとか、方針の決定をいただきました。

こういったものを受けて私ども地区計画ですとか、自由が丘の駅前約4,000平米、今、市街地再開発を進め、都市計画決定をしております。当然こういったものは都市計画交付金の対象になるだろうと期待もしています。それからあと自由が丘の中に都市計画道路、補助127号が優先路線として入っていて、それについても来年度改めて東京都に事業認可の申請をお願いし、これも都市計画交付金が対象になろうかというふうに思います。

先ほど申し上げたように、これ知事、何度もこのボードを御覧になって、ああ、またねって話になるかもしれませんが、これを見ていただくと、この都市計画税の8%、約200億円が23区全体の交付額になっていますけど、実際の仕事の割合からいくと、これ8%ではなくて70%、30%になってますから、非常にこれアンバランスになっています。ですから是非このアンバランス、私どもが今是非適正化というのをお願いして、大体今3倍ぐらいになっていますから、今200億を600とか800億に是非適正化をお願いして、「未来の東京」づくりの一翼を、是非私ども目黒区の未来の目黒区（街）づくりとして貢献をしていきたいと思っておりますので、こういった都市計画交付金の適正化を通じて、23区のまちづくりにも是非お力添えをいただきたいというふうに思っております。

以上、目黒区からです。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは知事からお願いいたします。

○知事 それでは幾つかのポイントがあったかと思えます。私の方から、今最後にあった長期計画に関連して申し上げたいと思えます。

何度かおっしゃっていただいた「未来の東京」ですけれども、人が輝くということ、それから様々な観点から「未来の東京」を見据えてバックキャスティングで今何をすべきか等、いろんな要素を組み入れております。

その中で区の長期計画のお話もありました。その取組、区の長期計画と都との連携の話、協力についてであります。コロナの戦いが長期化する中で、都も総力を挙げてこれを取り組んできたわけでありまして。

そしてその先の絵を描いていくということ、元々準備はしていたわけですが、その中でもDX、デジタルトランスフォーメーションの推進、ゼロエミッションの東京の実現等、可及的速やかにかつ長期的にも行わなければならない点は共通している課題かと思えます。

特にDXについては、区市町村との連携・協力が必要でありますし、また、特に専門人材による技術相談等、また職員向けの勉強会等、それぞれ各自治体のDXの推進に繋がる支援を行ってきたところです。

また、今年度新たにCIOフォーラム等の場を活用しまして、情報の共有や連携強化を図

っております。この分野も特に連携をすることが無駄なく、かつ最も効率的なデジタルトランスフォーメーションのネットワークを築くことができればと思っております。

その他幾つかございました。副知事からお答えしたいと思います。

○副知事 それではワクチン接種、保健所関係、それから都市計画交付金について、私の方からお答えさせていただきたいと思っております。

まずワクチン接種でございますけれども、3回目の追加接種ということが課題になってくるわけでございますけれども、国は本年12月から3回目の接種開始に向けて、区市町村は住民が住所地で接種を受けられるよう接種体制を確保し、都道府県は区市町村を支援しながら進捗管理を行うとの役割分担を示しているところでございます。

今までワクチン接種におきまして、区市町村と東京都の間、一生懸命協力しながらやってきたと思えますけど、課題があったことも事実でございます。この3回目の接種に向けては、こういった課題を十分改善しながら、より緊密に連携しながらやっていきたいというふうに思っております。

それからポストコロナ対策。特に保健所の問題でございますけれども、このコロナ禍において保健所の在り方というのは様々な観点から議論されたのは、もう言うまでもございません。

まずはそのデジタル化の遅れといった、そういった大きな技術的問題もございましたけど、あと権限の配分の問題のような、大きな根本的なものに係ることもございました。国の通知によりますと、現在策定中の保健医療提供体制確保計画におきまして、特別区は地域医師会と協議して、保健所と医療機関の役割分担や連携体制を明確にすることとされております。

住民に身近である特別区の強みを活かしながら、都と特別区が連携して保健所を中心とした感染症対策に取り組むことが重要でございますので、この保健所問題というのは今までのこの今回の教訓を活かしまして抜本的かつ徹底的に検討し、改善をしていきたいというふうに思っております。

それから都市計画交付金についてでございます。本交付金は特別区の都市計画事業の円滑な促進を図ることを目的として、区が負担する事業費の一定割合を交付するものでございます。この交付金の在り方については、長年都と特別区の間でいろんな議論を重ねてまいりました。これまでも特別区の皆様からの御要望を踏まえまして、対象事業を順次拡大する等、見直しを図ってきたところでございます。

また、ただ一方でその原資となる都市計画税はこれは都税でございまして、やはり法律により、最初から特別区に配分することとされている調整三税とは性格が法制上異なるということも、またこれ現行の事実でございます。

ただ、いずれに対しましても都市計画事業というのは都区一体連携して進めていく大切な事業でございますので、今後十分意見交換をさせていただきながら、都市計画事業の円滑な促進に努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○行政部長 どうもありがとうございます。

○行政部長 それでは続きまして、中野区の酒井区長、御発言をお願いいたします。

○中野区長 都知事、いつもお世話になっています。

先日、中野区の保健所も来ていただきましたけど、お陰様で今、毎日中野区内は二桁いかないうらいに落ち着いていまして、ようやく長い間保健所の職員も休みを取れなかったところが、今は交代で休みが取れるということで、ここで一旦ほっとしましたけれども、次の波が来るかもしれないということで、我々としてもこれまでの反省点を踏まえて、東京都とも連携をしているところもしっかりと検証しながら改善していきたいと思っておりますので、是非御協力をよろしくお願いいたします。

それからこの場を借りて、先ほど品川区の濱野区長からペイペイのチラシを出していただきましたけど、中野区もお陰様でこの9月いっぱい30%還元のキャッシュレスのキャンペーンをやりましたところ、大変好評でございまして、初めてキャッシュレスをやってみたという方が相次いで、非常に事業の効果が大きかったと思っております。これはもうまさに東京都からの補助もあって実現できたということなので、この場を借りて深く感謝申し上げます。

私どもからは三点大きく項目に分けて、お話させていただければと思います。

一つ目が子育て先進区の実現に向けた取組ということでございます。中野区は基本構想、基本計画というものを策定しまして、その中で10年後の中野が目指す姿として政策課題を設けております。その一つ、重点プロジェクトとして子育て先進区を実現するというので、出生率の向上や子供と子育て家庭の区内定住の促進を図るために、子供と子育て家庭の満足度の高い街を目指すとしております。

一つこの動きとしては、来年度の開設になるんですけども、児童相談所の設置を予定しております。令和2年度の児童虐待対応件数としては、東京都は全国平均を大きく上回って増となっております。中野区が円滑に児童相談所を開設するためには、やはり東京都の人的・財政的な支援を是非お願いしたいと思っております。

まず一つ目の人的支援といたしましては、虐待通告の増に伴って児童福祉司の配置計画も増員をしておりますけれども、経験のある職員の確保がやはり大きな課題となっております。児童相談所の円滑な開設のために、是非児童福祉司、スーパーバイザーの派遣等をお願いできればと思っております。

そして二つ目が財政的支援です。児童相談所開設に関わる都区財政調整に係る協議については、令和4年度に行うこととなっております。令和2年度の配分割合の変更、0.1%知事の英断で付けていただきましたけれども、これでは不足しているということは実際のところございます。都区財政調整として財政的な支援の検討を、是非お願いしたいと思っております。

二つ目に産後ケアということで、この樹立を是非していきたいと考えております。コロナ後の出生率の回復に向けて、子供を生み育てる家庭を応援する取組として、妊娠・出産・子育ての切れ目のないトータルケアの樹立が求められていると考えております。

区では様々なサービスを展開しておりますけれども、特に家庭の状況やライフスタイル

に合せたサービスを行うためには、更なる工夫や相談体制の構築、東京都のご支援も併せた隙間のない支援が必要であると感じております。是非この産後ケア、トータルケアの事業については、引き続き東京都と一緒にやって取り組んでいきたいと思っておりますので、是非よろしく申し上げます。

大きな二点目は、活力ある持続可能な街の実現ということでございます。中野の地域資源を有効に活用しながら、地域のブランドづくりを進めて、地域経済の回復と街の活性化に繋げていく。これが区の主要な政策課題としております。まちづくりの推進、そして文化芸術の振興、街の安全性・快適性・利便性の向上や、商店街をはじめとした街の賑わい、これを東京都と一緒にやって私達も取り組んでいきたいと考えております。

一つは地域経済の回復と街のブランディング、産業の活性化、そして、中野駅周辺地区、こちらが今再開発を進めておりますけれども、そのまちづくりに伴った新たな活力と賑わいの創出。こちらに力を入れていきたいと思っております。

東京都からはキャッシュレス、先ほど申しましたけどキャッシュレスの支援もいただいておりますし、また、この商店街が今中野区もキャッシュレスに一生懸命取り組んでおりますけれども、全体がこれから次の時代に向かって商店街も力を更に付けていかなきゃいけないということで、この振興については是非一緒に取り組ませていただきたいと思っております。今年度の東京都生活応援事業の補助制度の継続も是非お願いしたいと。それから地域における経済を循環させ、感染症等の影響下にあっても持続的に発展させていくための各区の商店街対策への支援制度、是非力を入れていただきたいと思っております。

そして大きな三点目です。先ほど目黒の青木区長からもお話ありましたが、「スマート東京」の推進と併せた区の情報化施策について。これもコロナがまだ終わってはおりませんが、大きな課題として我々捉えております。

中野区は令和6年ということで、あと2年半後ぐらいになりますけれども、現在の区役所本庁舎から新しい区役所を今作っておりますし、そこに移転を予定しております。これを契機にして、東京都や国が進めようとしている整備、そしてDXの推進と歩調を合わせながら、情報化施策に集中して取り組んでいく予定でございます。

特に新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って、これまでとは異なる生活様式や働き方が求められる中、自治体においてICT、DXが果たす役割というのは非常に重要だと考えております。区では今後の区の情報化政策の基本的な方向性を示すものとして、第二次の中野区地域情報化推進計画、これを策定に向けて検討を進めているところであります。DXの推進を計画的に進めていこうと考えております。

その中でやはりDXのノウハウ提供や、IT人材の育成、こういうところが本当に区としても今困っているところでございますし、是非宮坂副知事もいらっしゃいますし、東京都のお力もお借りしながら、中野区もこの機会を捉えてしっかりと進めていきたいと思っております。

また、区内における5Gの基地局の設置の促進や、都心部等の先行実施エリアで実施される、都市OS等の取組の成果の区への早期の横展開についてもお願いしたいと考えてお

ります。

また、国の方針に基づく業務システムの標準、共通化に当たっては、都区制度による固有課題や、都が広域自治体の役割を担うこと等を踏まえて、都にも主体的に是非取組をお願いしたいと考えております。

大きく三点でございますけど、中野区からの御要望でございました。どうぞよろしくお願ひします。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは知事からお願いいたします。

○知事 中野区長からの御要望でございます。三点あるうち一つ、私の方から三点目のDXについて申し上げたいと思います。

DXの推進、それぞれ目黒も品川も中野も皆様方生活応援ということで、皆さんデジタルをお選びになって、実際にそれを進められたということ。やはり皆に知って、実際に使ってもらって、その使い勝手を知ってもらうというのは極めて重要なことかと思っておりますので、そういう意味でそれぞれ取り組まれたということを大変嬉しく思っております。

QOSはクオリティオブサービスで、これ私もよく使います。クオリティオブライフという言葉、QOLと言いますけれども、こちらを高めるためには「スマート東京」という、実現に向けた取組を進めなければならない。ですからクオリティオブサービスをよくして、クオリティオブライフを高めていくという、こういう今の時代の流れではないかと思っております。

先ほど申し上げましたように、CIOフォーラムを設けまして、是非DXに関しての自治体間の意思疎通と言いましょか、それから技術の共有とか、システムをできるだけうまく効率的に動かしていくことが、結局QOSにも繋がるということだと思っております。

また、国の方の今デジタル庁が動き出しておりますので、ここの連携等も必要になってきますので、国の動向の情報提供等、区市町村の支援にこれからも努めてまいります。

それから具体的に5Gの基地局の話ございました。この5Gを乗せる、基地局を乗せるための基盤が必要になってくるわけで、これをあちこちまたビルの屋上とか、そういった所を探し回るといふ、これも営業活動等ではありますけど、結局5Gの電波の特性であるとか、そういったことを考えますと、都においては都の保有資産である、アセットである、例えば警視庁の信号とか、都道の街路灯等を活用してもらうことによって、できるだけそのインフラを5Gのインフラを整えていくということが必要になってくるわけです。

区の方でも、区がお持ちのアセット、どういうことができるのか等、一度棚卸等もしていただくことによって、5Gの環境を早く整えられるのではないかということだと思いません。

こういった都の様々な取組は皆様方と共有し、また、宮坂副知事もこの点について、より皆様方と連携をしていくということ、何度も申し上げておりますので、是非連携しながら東京全体のDXに努めてまいりましょう。

多羅尾副知事から二点、お伝えいたします。

○副知事 それでは児童相談所、産後ケア、それから地域経済の活性化について、私から

お答えさせていただきたいと思います。

まず児童相談所でございますけれども、児童相談所の運営等につきまして、新たに設置される特別区さんへの情報提供・助言等、積極的に行ってまいりたいことは言うまでもございません。特に開設した先行4区の状況等も踏まえまして、こういった支援がより必要なのか、そういうことも検証しながら御支援申し上げていきたいというふうに思っております。

また、お話の人材確保というのも大変重要でございます。都では特別区職員の派遣研修を積極的に受け入れまして、都の児童相談所でこれまで積み上げてきましたノウハウを余すことなく特別区さんの方に今伝えていくと。こういうこともしっかりやっていきたいと思っております。

また、設置に伴う経費につきましては、都区財政調整制度において、開設準備に係る経費や児童相談所運営に伴う経費を、都区で合意した内容に基づいて算定してまいりたいと思っております。

次に産後ケアの取組についてでございますけれども、都は区市町村における産後ケアの取組を促進するため、区市町村の負担分を全額補助するとともに、産後の母子に寄り添って家事・育児を支援するサポーター派遣についても支援しているところでございます。

引き続き妊娠期から産後まで、切れ目のない支援を実施できるよう、都として必要な支援を行ってまいり、子供政策というものを充実させてまいりたいというふうに思っております。

それから地域経済の活性化についてでございます。コロナ禍で地域経済が非常に痛んでいる、もうこれは大変な問題・課題だと認識しております。

そしてその活性化に向けてはいろいろな対策がございますけれども、商店街における感染症対策、キャッシュレス化等の取組への支援を、都として重点的に支援しているところでございます。

中野区さんにおかれましては、商店街のキャッシュレス化を推進し、顧客の利便性向上や安全・安心に買い物できる環境整備に積極的に取り組んでおられまして、都が実施する商店街デジタル化モデル事業に「中野南口駅前商店街」が選定され、現在いろいろな事業が進んでいるということで伺っておりますし、また、昨年には北口ブロードウェイの方でもやられているということでございます。今後とも区市町村と連携いたしましてキャッシュレスをはじめとして地域を支える商店街の持続的・安定的な発展をしっかりと後押しさせていただきたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

○行政部長 区長の皆様、ありがとうございます。

そろそろお時間となります。最後に知事から一言、お願いいたします。

○知事 現場の皆様方のお声、直接、オンラインではありますけれども伺うことができました。大変貴重な意見交換の場でありました。

これからも皆様方の御意見・御要望を踏まえまして、長期的には「未来の東京」戦略の

推進、それから来年度予算編成、そしてまたいまだに戦い続けておりますけれどもコロナ対策、これもしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

また、先ほどの地震もございました。防災等も改めて都と区の連携、しっかり行っていきたいと思っております。

都全体で一回目の接種を終えた方が77%を超えており、ワクチンの接種ですね、12歳以上です、超えております。それから間もなく発表になりますけれども、今日も二桁台で陽性者抑えられ、かつ重症者の数もじわじわでありますけれども下がってきております。やはりまだ40代、50代の方々の重症化率が高い、そして中にはまだワクチンを接種しておられないという方も比率的にも高いかと思っております。

是非ワクチンの接種、もう一息かと思っておりますので、それぞれの周知、どこで受けられるかということも改めて行うと同時に、都の方でも今は予約なしという枠も設けて進めております。是非コロナ対策、もう一息ということで、リバウンド防止措置期間でございますので、この期間をより活用して皆で抑え込んでいくということを今日は是非改めて共有していきたいと思っております。

国難とも言えるような危機でございます。これをしっかりと乗り越えて、首都東京の持続的な発展に繋げていきたい。今後ともどうぞよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。御苦労様でした。

○行政部長 それでは以上で終了いたします。本日は御多用のところ、どうもありがとうございました。

○知事 ありがとうございました。